

6-11

演題	従事者向けオンライン無料セミナーの取組
副題	～医療とケア従事者の学びの場づくりの報告～

地域貢献
学びの場作り

法人名	社会福祉法人 若竹大寿会
施設名	横浜市すすき野地域ケアプラザ

発表者名 (職種)	小藪 基司 介護支援専門員
共同発表者	塩山 母都子
共同発表者	白神 誠敬
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横浜市青葉区すすき野 1-8-21
TEL	045-909-0071
FAX	045-909-0072
メールアドレス	susukino@wakatake.or.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	地域ケアプラザは、高齢者、子ども、障害のある人など誰もが地域で安心して暮らせるよう、身近な福祉・保健の拠点としてさまざまな取組を行っている。当法人では、運営する7ヶ所の地域ケアプラザが連携して地域支援に取り組んでいる。
---------------------------	---

研究の目的、PR ポイント

新型コロナウイルス感染症のパンデミックが長期化する中で、医療・ケア従事者が集合により研修を受ける機会が失われた。その様な状況下でも学びを止めないために社会福祉法人若竹大寿会では、オンラインによる従事者向け研修を令和4年8月より開始した。令和5年2月まで計4回開催し、延べ参加者は200名近くに達した。本取組により、法人の垣根を越えての研修の取組から、新しい形での医療・ケア従事者の学びの可能性が見えてきたので報告したい。

取り組んだ課題

2020年1月より始まったわが国の新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは、神奈川県における医療・ケア従事者の仕事の形に大きな影響を与えた。その一つとして、あらゆる研修が中止や延期に追い込まれたことが挙げられる。長引くパンデミックは、それぞれの現場における感染対策の負担感を増大させ、研修への参加機会の減少は、医療・ケア従事者の知識やスキルの向上を止めてしまうことが危惧された。

具体的な取り組み

当法人は地域ケアプラザを7ヶ所運営しており、法人本部と連携する形で医療・ケア従事者向けのオンライン研修を4回実施した。研修内容は、今後介護支援専門員の実務のベースとなる「適切なケアマネジメント手法」の「基本ケア」と「疾患別ケア」よりテーマを選定した。各回のテーマや講師、参加人数は以下の通りであった。セミナーはすべてZoomによって行い、事前申込みなどは行わず、当日に誰でも参加できる形式とした。

- 第1回 意思決定支援
横浜市立大学 日下部明彦先生 52名
- 第2回 家族支援
横浜市立市民病院 石渡未来先生 40名
- 第3回 大腿骨頸部骨折の方へのケア
横浜市立大学 根本明宜先生 56名
- 第4回 これまでの生活の尊重と継続の支援
横浜市立大学 金田明子先生 48名

セミナーの周知は、セミナー当日の約1か月前より、横浜市社会福祉協議会の高齢福祉部会の協力により、横浜市内の全会員施設へのメールによる周知、当法人によるInstagram、過去の参加者へのダイレクトメール送信を行った。

活動の成果と評価

各回ともにセミナー後に参加者アンケートを実施した。

各回のアンケート回答状況は以下の通りであった。

第1回 参加者52名中37名(回答率71%)

第2回 参加者40名中13名(回答率32%)

第3回 参加者56名中26名(回答率46%)

第4回 参加者48名中15名(回答率31%)

参加者の職種については介護支援専門員が最も多く、続いて看護職となっている。セミナーのテーマとして、「適切なケアマネジメント手法学習シリーズ」としているために、多くのケアマネジャーの関心を集めたことが示唆された。また、内容については、すべての回答者が「期待通りだった」もしくは「期待した以上だった」と回答している。また、自由記載欄への記載内容から、テーマ設定や講師選定が適切であったと評価することができた。今後の利用についても、高い期待感があることが分かった。

今後の課題

過去4回のアンケートは回収率にばらつきがあり、正確性に欠けることは否定できない。現在はセミナー実施直後にアンケートフォームをチャットや画面上のQRコードで案内をしているが、その手法には改善の余地が残されている。

引き続き当法人では、「適切なケアマネジメント手法学習シリーズ」を続けて開催予定であるが、今後はより多様なテーマによるセミナーを実施して医療・ケア従事者の質の向上に貢献したい。